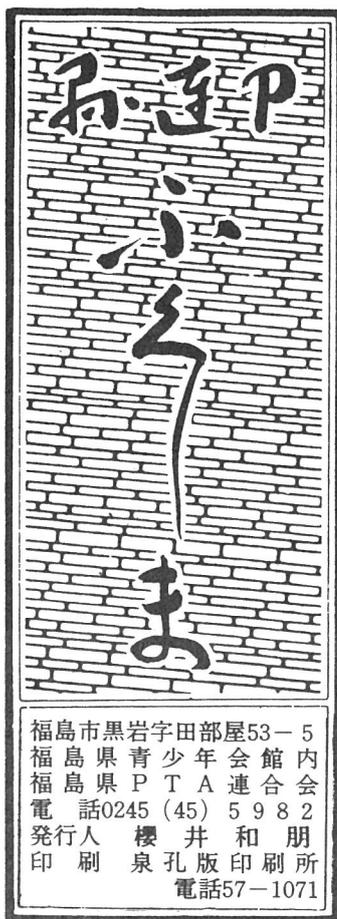


福島県PTA連合会会報
第32号_H03.11.20

大会主題

—生きる自信と喜びにみちあふれた心豊かな
たくましい子どもを育てるPTA活動をすすめよう—



多大な成果を収めた

会津若松大会

第四十回福島県PTA大会終わる

「生きる自信と喜びにみちあふれた心豊かな、たくましい子どもを育てるPTA活動をすすめよう。」を大会主題に掲げ、県下二千余名の会員参加のもと、鶴ヶ城と白虎隊で知られる会津若松において、第四十回福島県PTA研究大会会津大会が、九月十三日・十四日の両日にわたって開催された。

第一日は、受付の後午後直ちに七つの分科会に分かれて研究協議会が行われた。

二日目は、櫻井県PTA会長より「将来を築く子ども達が生きる自信と喜びを持ち、心豊かにたくましく成長することを願って活動しよう。」とのあいさつがあり続いて長年にわたるPTAへの功労者・団体に対して感謝状・表彰状の贈呈が行われた。

記念講演は

若松出身プロ野球セントラルリーグ会長 川島廣守氏が

「スポーツと人間模様」と題し豊富な経験をもとに感銘深い話をされた。(講演内容は、四ページに掲載)

「生きる自信と喜びにみちあふれた心豊かな、たくましい子どもを育てるPTA活動をすすめよう。」を大会主題に掲げ、県下二千余名の会員参加のもと、鶴ヶ城と白虎隊で知られる会津若松において、第四十回福島県PTA研究大会会津大会が、九月十三日・十四日の両日にわたって開催された。

「スポーツと人間模様」と題し豊富な経験をもとに感銘深い話をされた。(講演内容は、四ページに掲載)



最後に次年度開催地の福島市PTA連合会長、國分敏夫氏へ県P旗が引継がれ、二日間の幕を閉じた。

輝く受賞者

平成三年度県連P会長より感謝状・表彰状を受賞される方々のご芳名。

△感謝状△

〔県連P前副会長〕

神津武志 榮 壽

〔県連P前監事〕

波多野広文

〔県連P前理事〕

五十嵐謙吉 西澤久仁男

白岩吉治 小峰由久

小林作一 千葉正年

△表彰状△

福島市立杉妻小PTA

同 余目小PTA

同 土湯小PTA

同 大鳥中PTA

同 野田中PTA

同 西信中PTA

伊達町立東小PTA

二本松市立南小PTA

同 北小PTA

同 岳下小PTA

安達町立波川小PTA

白沢村立白岩小PTA

岩代町立百目木小PTA

東和町立下太田小PTA

大玉村立大玉中PTA

郡山市立三代小PTA

同 東芳小PTA

同 日和田中PTA

同 安積中PTA

同 安積二中PTA

同 大槻中PTA

同 須賀川市立第三小PTA

安達 智 中津伸一

佐藤弓子

〔県連P前事務局員〕

猪野衛雄 菊地久男

〔各地区前事務局員〕

齋藤正寛 吉田悦郎

菅原 弘 田中 隆

高橋道保 鈴木英夫

江幡邦敏 鈴木照久

森田時夫 阿部 制

押部源清 木下宇平

大河原正二 佐藤老松

平田村立西山小PTA

古殿町立竹貫田小PTA

滝根町立菅谷小PTA

船引町立門沢小PTA

同 瀬川中PTA

白河市立五箇中PTA

若松市立赤井小PTA

同 永和小PTA

同 第五中PTA

猪苗代町猪苗代中PTA

坂下町立金山小PTA

いわき市立錦東小PTA

同 泉中PTA

浪江町立幾世橋小PTA

広野町立広野中PTA

相馬市立中村二小PTA

原町市立石神二小PTA

同 大甕小PTA

飯館村立草野小PTA

ほか個人 百名

〔県連P安全互助会表彰〕

福島市小中PTA

達南PTA

伊達地方小中PTA

石川地方連合PTA

田村郡PTA

西白河郡PTA

東白河郡PTA

北会津地区PTA

大沼郡連合PTA

南会津郡PTA

相馬地方PTA

双葉郡小中PTA

安達地方小中PTA

分科会報告

第一分科会

「みんなが参加できる組織・運営を考えよう。」

提言

瀬川中 渡邊義一
親が燃えれば子も燃える、を合い言葉に会合や行事は、皆が出席できる曜日・時間帯を選び、夜間に設定して好評だった。

尾岐小 谷澤ちづ子
会長職の分担、男性委員を増やす、一会員一参加を導入して、委員まかせや会員の意識の低さを解決し、小規模ながら地域ぐるみの運営を志した。

吉井田小 二瓶由美子
今までのPTAの既成概念にとらわれず、子供達に今何が一番大切かという目的意識を持つて、PTAを活性化する努力をしている。

助言
翁島小校長 二瓶先生
子供の生活に直接関



「必要な切実な問題を解決する努力をする。小さな集団活動を取り入れ、あらゆる活動が、家庭の対話の対象となり、継続することが望ましい。」

県社会教育主事 渡辺先生
総会でPTAの内容を確認し、必要があれば規約を見直しながら会員の意識を高める。役員や夫婦間の報告連絡相談を密にする。先生方も指導力・人間的魅力をもつ努力をしてほしい。

「会員相互の意識を高める研修活動をすすめる。」

提言一、二本松二中から、親は子どもからも学び、子どもたちも親から学び、子どもから、親から、教師から生き方を学びとることが生涯学習にたつたPTA活動のあり方だと思ふ。従来からの奉仕作業も親と子で共通意識をもって実施することにより、子どもが親から学びとること、親が知らない子どもの一面向を理解することができた。

提言二、柳津小からは、婦人の就業率が高まり、ほとんどの家庭が共稼ぎである。このような状況下でも、会員すべてが参加するPTA活動の推進という理想を現実のものにするためにはPTA活動への参加を、母親だけでなく両親へ、さらには祖父母まで、また地域社会にまで拡げていく必要がある。そのために、会員一人につき、年一回以上の行事協力を努めることや研修活動に計画的に参

加することなど、常に開かれた「父母と教師の会」に努めている。

加することなど、常に開かれた「父母と教師の会」に努めている。

第二分科会

「家庭教育の役割を認識し、家庭教育力を高めよう。」

提言

提言一、川俣中学校では五つの心をベースに見守る姿勢と、育てる態度が、子供達の目標実現へのカギといえる。

提言二、小規模校山岡小学校では地域活動を通して、子供とのかかわり合いを深め、子供を見る目が自己研修につながるし、その中でいたわる豊かな心が育つ。

提言三、吾妻第一小学校では、家庭における父母、祖父母の役割の再認識と地域の人達や学校との連携が重要である。質問の中では、テレビのスイッチを切るタイミング。子供のやることを親がやってしまう。祖母の家庭での役割は古いことでも変らないいいものは残すべきだ。人と人との間で一生懸命育てる場が家庭ではないか。等あった。

指導助言者のお二人の先生からは、あいうえおの心がけで



第三分科会

子育てを、愛情、いたわり、美しい言葉、笑顔、おだやかで。

提言

家庭教育の基準は個々の家庭にあり提言者のおりだと思ふ、文部省では人間形成の基礎的教育と定めてある、大人が社会的に訓練されることが必要であり、すぎると、「あまえ」になり、父母の教育の元に行われており、すぎると過保護になりかねない。

等のご指導があった。

等のご指導があった。

等のご指導があった。



大会若松津

第四分科会

「生きる自信と喜びにみちた心豊かな子供を育てる文化活動をすすめよう。」

郡山第二中学校からは、部活動や学年におけるPTA活動について発表がなされた。福浦小学校、大久田小学校からは、文集の発行、剣舞愛校会、緑の少年団活動、伝承あそびなど地域に密着した活動の様子について発表がなされた。

その後、それぞれの提言について質疑応答があり、主として次のことについて、話し合いが深められた。

一、地域の文化活動を継承するために、指導者不足という現状の中で、その活動をPTA及び組織の中にどう位置づけるか

二、自転車通学など、安全に関する活動をどう行っていくか。



第五分科会

最後に、助言者の高久信と喜びに

果だけを求めるのではなく、最大限努力している子どもを援助できるようにしたい。◎季節・成長に応じた会報の工夫が大切である。◎ふるさと文化の継承をするためには、指導者が高齢の場合、早目に手をうつ必要がある。◎発達段階を見通したPTA活動を工夫してほしかった。などの助言をいただいた。

「心豊かな子供を育てる地域活動をすすめよう。」

提言一では、大東中より「主体性の確立」を図るには学校と家庭とが機能的に関連しあった連携プレーが大切であるという内容であった。具体的には「明るい住みよい大東」をスローガンに公民館とのタイアップ、また大東環境美化デーを設定し、各種地域団体等によりきれいな町づくりを通じた、主体性育成を目指している。

提言二は、北山小よりPTAの事業計画に沿った諸活動を展開することによって、地域団体へ拡げていくという効果的な実践内容が発表された。「花いっぱい運動」の中で美しい町づくりに貢献していること、また小さい頃から地域活動の大切さをきっちり教えていくことの必要性を強調し真剣に取り組んでいる姿がうかがえた。またノーチヤームの実施、疑似兄弟をつくって兄弟のよさを教え合い、対人間とのふ

第六分科会

れ合いを大切にしていこうとする様子がかがえた。どちらも課題意識をもちPTA・地域との歯車をうまく噛み合せながら成功している。

最後に助言者から心豊かな子供とは「感謝の心、思いやり、生命の尊重、感動する子供」と述べられたが現代は物は豊かだが心が貧しいといわれる中で原点に戻ったような気がした。きれいなことに終ってしまいがちなこのテーマの難しさを改めて感じると共に、有意義な第五分科会であった。



「心身に障害をもつ子供の教育をPTA活動の中で積極的に取り上げよう。」

◎提言者の発表
陸合小より特殊学級のPTA活動として養護教育に関する教養講座を開催。今後は養護学校との交流を進めたい。富岡二中より通学区内に富岡養護学校と東洋学園がある。養護学校と毎年定期的な交流。PTA機関紙を発行し、写真や感想文をとりあげ、会員の理解や協力を役立てている。

◎質疑・応答
△浪江小▽障害を持つ人にゆとりを持って接し、理解してやるのが大切
△若松▽親の対面から養護学校に入るべき子供を通わせていない例も多い
PTA活動に特殊学級の親が出られるような位置づけが必要。
△東白川▽身近にいる心身に障害を持つ子供を自然な形で迎え入れてほしい。
△相馬▽子供よりも親の

方が、障害児を偏見の目で見ることが多い。
△湯本▽二十一世紀に向かって心豊かな教育、個人の教育を大事にしたならば特殊学級を増やすべきである。

△相馬▽出口が問題、就職・進路が不安である。
◎指導・助言
今までにないすばらしい分科会であった。一人一人を認め受容してやること。生きる喜び、力を見つけてやるのが大切
障害の子を持つ家庭も地域に溶けこんで行けるような態勢作りが必要。



第七分科会

「家庭のあり方と親の役割を考え、学校との連携を深めよう。」

◎提言者の発表

○子どもによりよい進路を導くためには、家庭での親の働きかけを具体化させ、幅広いものにしていくことが大切である。

○学校との連携をより密にしていける必要がある。

○親として心がけていきたいこと。

①子ども自身が自分で進路を決められるよう見守っていくこと。

②子どもの意志を尊重し親の考えや希望、家庭の状況を十分話し合う。

③各種テスト結果のデータをもとに対話の機会を多くもつこと。

④情報を正しく受けとめ子どもの実態を正確に把握すること。

◎研究討議
分科会の参加者が百六十七名という大人数のせいか質問や意見も活発であったし、それなりに理解も深められたようである。進路についての話し合いは、励ましや子ども



との対話も同じことの繰り返し返しの傾向がみられ、「生き方」までの内容まで踏みこんでいないのが現状である。

◎助言者よりのご指導
進路指導にあたっては家庭とのふれ合いを大切にし、長期的展望にたって子どもをながめることまた学校との連携をはかりながら広い視野にたって指導していくこと。

ポイントとしては、子どものしつけは学校や社会よりも家庭が中心になるように心がけなければならない。

記念講演

『スポーツと人間模様』

プロ野球セントラルリーグ会長 川島廣守氏

会津は私の故郷です。このように素晴らしいPTAの大会にお呼びいただき、故郷へ帰ることができ大変幸せです。

昨夜、宿で「君が海に帰る日」という大変感動的なテレビドラマをみながら、PTAや学校の先生方のご苦労の大変さを実感しました。

昨今毎日テレビにスポーツが出ない日はありません。大相撲、プロ野球と、さまざまな興味と喜びを与えるスポーツは芸術、或いは真理を探究する学問と同じように、人間の住んでいる社会の成熟のパロメーターです。そういう意味での日本は今スポーツ花盛りで、社会が豊かで成熟していることを教えてくれます。

日本を含む先進国は、「もの」の豊かな社会になり、さまざまな科学機材により手足はもちろん頭さえも使わなくてよい

時代に入りつつあります。ものは使わなければ衰え社会全体が運動不足症という現代病に冒され、精神的なストレスがこうじ、スポーツが必要な時代となり、施設が完備され、まさにスポーツがかけがえのない生活に組み込まれる社会になりました。

その昔、慶応大学の小泉信三先生がスポーツの



三つの宝は、一つに練習は不可能を可能にする。第二にフェアプレーの精神。第三の宝は友達。と申され、今や生涯スポーツ時代と称されています。私もご縁があって、未知の世界であるプロ野球に入り七年。その間スポーツ界のアマ・プロを通じて数多くの方に昵懇をいただき、「一芸の士と共に語るべし」という人生観を教えていただきました。一つのことには精進努力して得られた人生観はかけがえのない人間として素晴らしい人達ばかりです。

そこで、プロ野球で申せば、一身にすべての責任を背負っている監督は、自分の描いたイメージ通りに選手が動くようにと、常に祈り悩んでいます。これが監督道です。

有名な野球選手や百米世界新記録を出したカー・ルイスは常に限りなく最高のものに向かって止まることなく挑戦しています。スポーツはシナリオのないドラマで、誰よりも強く、正しく、美しくをモットーに努力しています。

監督が自分のイメージ通りに選手を采配することは、選手の心を読むことが一番大切で、優れた教育者でなければ監督は務まらないのです。監督は一点非凡なところを見出し磨いてやる。人前で褒めて、けなすなどいうこと、そして、選手との間に生まれた美しい師弟の交わり、愛情でチームのエリートを育て、お互いの心の琴線に触れ合う人間関係が生まれるのです。

昔から心・技・体と申しますが二十一世紀は互いに生きる社会の中で心の問題が一番大事です。最後に人生にとって最も大きな病は「おごり」だと私は思います。

今年の巨人軍の弱体ぶりには選手たちの心のおごり以外にはないのです。筋肉づくりも大切ですが、何よりも心を強くしなければなりません。すべてにおいて勝利への意欲を持続しなければ人間の進歩はありえないのです。一番の大きな病は「おごり」であるという人生観を多くの人に教えていた

県・若松大会

津島小PTA会長
国分 悟

豊かな歴史の町1会津若松にて、第四十回福島県PTA研究大会が開催されましたこと積年の重みを感じます。本年度の大会主題「生きる自信と喜びにみちあふれた心豊かな、たくましい子供を育てるPTA活動をすすめるよう。」のもと七つの分科会にわかれ熱心な協議を行い、翌日のプロ野球セリーグ会長、川島廣守氏の記念講演をもつて、九月十三・十四日の有意義な大会を終了した。

今回、県Pの分科会の分担では、第六分科会の養護教育というやや特殊な事例提言者に指定され困っておりました。郡Pに帰り、皆との協議の上、富岡二中の好事例があり依頼でき、さらに遜色のない発表内容であつて、安堵しております。内に、教育改革が遅々として進まない中、文部省が学校五日制の導入を決定した。状況がPTA

の対応より早めであり、新たな問題が加味された。今は世界的歴史的な大変革期にある。これまで

は我事のみで専念し、経済的繁栄を追求してきた。しかし、世界的変化の中で、世界の中の日本として対応せざるを得ない状況にある。21世紀を担う子供達には哲学をもち、国際性のある、心豊かな日本人になって欲しいなと、このPTA大会にも思わずにはいられない。

PTA研究大会に出席して

東北・鶴岡大会

吉井田小PTA会長
二瓶 由美子

東北P研究大会は、平成四年度福島県P主催で開催される予定であり、主管は福島市となる。既に準備段階を迎えた市P連の副会長として、鶴岡大会には格別の思いをもつて参加した。

大会前日のレセプションに始まり、各分科会、全体会...どの場面にお

いても、山形県PTAの組織力と実行力をまのあたりにし、得るものは大きかった。

特に、第七分科会の存在は意義深いものだった。学校週五日制実験校として最も東北に近い群馬県太田市の小中学校の実践報告を受け、日P高知大会における提言を参考資料として、保護者の立場から、或いは教師の立場から、五日制実施への疑問が出された。それを受けて、実験校の校長先生と助言者より、

全国・高知大会

伊達中PTA会長
吉田 一政

第三十九回日本PTA全国研究大会高知大会は、全国から八千名の会員参加のもと、去る八月二十二日・二十三日の両日、高知市で開催されました。大会当日は、台風の本土接近で、船便等の欠航も出ましたが、それでも熱心な会員の皆様の参加を得まして、盛大のうちに研究発表会が行われました。

今年最大の大会スローガンは、「活力ある心豊かな子供を育てよう。」のもと次の三つのメインテーマに基き研究討議がなされました。一、共に学び共に実践する、いきいきとしたPTA活動をすすめるよう。二、家庭、学校、地域が手を結び、地域社会の教育力を高めるPTA活動をすすめるよう。三、人と郷土を愛し、国際性豊かな人づくりをめざすPTA活動をすすめるよう。以上三つのテーマを基本とし、特別部会を含め

十の分科会でそれぞれ提言があり、経験豊かな助言者を迎え、活発に討議が行われました。

今回の大会で、もっとも議論が盛んに行われたのは、学校五日制の件であったと思います。今大会では結論は出ず、今後の課題として残りましたが、私達親としても、一人一人、十分な意見を持って対処する時期が早々に来るものと思います。

大会事務局から

残暑が続く中で県大会を迎えることになり、気象条件によっては、全体会・第一分科会会場となる会津体育館の室温や食中毒の防止、音響効果等々、実行委員会発足当初から課題が山積していました。

特に、このたびの研究大会は、四十回という節目と重みのある大会でもあり、会津らしさも感じられるような大会にしたものだと、実行委員会発足当初から考え準備に取り組んで参りました。大会期間中は好天に恵まれませんでした。さ

したるトラブル等もなく大会を終了することができました。これもひとえに、県PTA連合会事務局よりの懇切丁寧な指導をはじめ、前年度の白河大会の緻密な実施計画、各部各係の活動が明確な反省記録、さらに、県内各地よりご参加くださったPTA会員の方々のご協力のたまものであり、改めて心から感謝申し上げます。

この大会の準備にあたり、会津若松市父母と教師の会連合会が、総力を結集してことを進めて参りましたが、皆様方のご期待にそえなかった点多々あったことを反省しております。

最後になりましたが、次年度開催の福島大会のご盛会を祈念いたします。



親が燃えれば 子も燃える

《田村》

船引町立瀬川中学校父母と教師の会

前会長は「親が燃えれば、子も燃える」を合い言葉にして昼夜を問わず活動してくれたことが現在の活動の源となっている。お陰で全会員が惜まない活動をしている。

▼教養委員会の活動

年四回学校と共催行事である授業参観も会員九八%の出席率でいずれも盛会に開催している。

▼保健委員会の活動

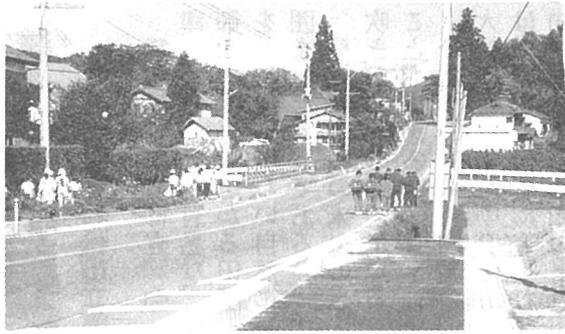
思い出深い中体連行事には保健委員会が中心になって経費軽減を図るため送迎に当たっている。

▼施設委員会の活動

年二回の愛校作業には全員参加の下で実施している。お陰でいつも整理された自然に囲まれた学校になっている。

▼補導委員会の活動

休業日等の校外補導はもちろんであるが、学区内に三四九号線の国道が縦断しているので交通事



(親と生徒の通学路
清掃作業)

故防止の面ではPTAが中心となつて年二回、早朝二時間の地区総出で通学路の草刈りを実施している。更に、地区の清掃作業を年一回午後

▼文化祭への協力

生徒会主催の文化祭は地域に開かれた学校ということで全員が、生徒たちの計画に惜しみない協力をしている。幸にもみんなが参加できるとのこと。土曜日、日曜日に組んでいる。

以上の活動を活発にするには執行部は、常に密な連絡を取っている。また、同総会の活動も活発でその協力もPTA並の実践を残している。更には、学校林の管理協力は地区区長さんの協力を得て手入

特色あるPTA活動

《石川》

地域の特性を生かした PTA活動の推進

古殿町立竹貫田小学校PTA

本校は、古殿町の北部に位置し、児童数三十一名四学級編成の小規模学校です。学区の総戸数が七十二戸で、全戸がPTAの正会員となっています。

▼親子宿泊生活

夏季休業中の一泊二日、校庭をベースに実施し、主な活動内容としては役場、町採石場とごみ焼却場の社会見学。釣りざお作りと罎つり、テント設置。夕食調理、肝だめし、星空教室、花火大会。二日目は、大風溪谷ハイキ



(親子宿泊生活大風溪谷
クリーン作戦)

ング、クリーン作戦、ステーキとやきそばによる昼食等バラエティに富み初期の目標を達成することができました。親は全戸が参加し、子供にさせる仕事を予め明確にして子供の自立能力を育てるよう配慮して実施しました。

▼子供会との交歓会

社会性を育てることを目標に、昨年より交歓会を実施し、子供たちに喜ばれております。ここでは自立できるPTAをめざして先生方におんぶずることを避け、計画、準備、運営等全て親だけで実施しております。

▼PTA奉仕作業

校地の除草と校庭の整地が年二回、学有林の下草刈り一回、役員の奉仕作業二回。午前八時三十分開始午後三時半終了、学区全戸が対象で当番者は全員が参加し環境整備や環境作りに努力しています。

この他、親子遠足、伝承遊び、収穫祭等親子活動を多く位置づけ、どの子もすくすくと逞しく育つていけるよう配慮して活動を推進しています。

三紹介いたします。活動例を二、六月の第二日曜日に実施、朝八時より始まり、



《若松》

健全育成を目指し 全会員参加の積極活動

会津若松市立第五中学校父母と教師の会

鶴ヶ城を北に仰ぎ、会津みしらず柿で有名な、御山の裾野に広がる田園を東に見、美しい自然に囲まれた本校である。

最近、若松の未来の息吹きが本校の周辺に見られることも出来る。

十八学級、六四四名の大規模校若松五中PTAは、歴史と伝統に守られ、知・徳・体の調和のとれた、子供達の健全育成を



(会津まつりで、手作りみこしをかたつ若松五中生徒達)

目指し、全員参加で活動を展開しております。

「桐の花」を発行する広報委員会は、単なる結果報告だけでなく、常にアンケートを実施し、会員の声を聞き問題を提起してくれま

す。会員の教養を高めるべく、講演会、研修旅行、PTA図書購入を行っている教養委員会の行事は毎年楽しみです。

会員相互の親睦と健康増進のためジャズダンス教室を開催した厚生委員会。あの時流した汗は、さわやかでした。

町内の祭礼や子供達の行事には必ず影で「安心して遊べよ」と、やさしく見守っている補導委員会、夜のお役目ご苦労様でした。

教育環境をより良くする為、校内の施設の整備、学校林の手入れ等、子供と一緒に、働く喜びを教えてくれた施設委員会。

親子レクリエーション大会や懇談会を行っている学年委員会は、子供、先生、父兄のふれあいを大切に企画しています。

三学年委員会は進路対策委員会として、義務教育の最後に素晴らしい花を咲かそうと、広報誌の発行、教育講演会、合格祈願等、全力投球で取り組んでおります。

この様に、各々の立場で、立派に責任を果たし、子供の可能性を引き出してあります。

それに答えるかの様に、部活動では県大会出場五種目、国体強化指定校として三種目も選ば

れ、又文化部での活躍も枚挙にいとまないほどです。私達は、この子

らの自主性を尊重し、「この親にしてこの子あり。」と、あくまで側面から、骨身をおしませ協力してまいります。

特色あるPTA活動

《北会津》

地域に根差すPTA活動

猪苗代町立猪苗代中学校PTA

本校は、背中に磐梯山、表には猪苗代湖と豊かな自然環境のなか、昭和三十九年に旧猪苗代、千里、翁島

中学校の三校が統合し現在の地に移り今日に至っている。また、当町は

医聖野口英世の出生地としても有名な年間約三百万人が訪れるという観光と農業の町です。

生徒数四五一、会員数四〇二、家庭と学校と社会における生徒の健全な成長を図るとともに、会員相互の教

養を高める事を会の目的とし全員参加、全員活動で次の諸活動に取り組

んでいる。▼教養委員会 各種研究会、町・郡連P研究会、各種研究、そして普段あ



(沖繩中学生とのサマーキャンプ)

▼環境整備委員会 学年毎に校舎周辺の除草・雪

囲い等年三回の奉仕作業を行う他、当地は県内でも有数の豪雪地帯でもあり冬季の除雪協力を行

っている。▼厚生委員会 学年対抗

▼地区委員会 長期休業中の生徒指導及び地区懇談会の運営にあたり地区の指導的役割を果している。

▼総務委員会 各専門委員長・本部役員で構成しPTA活動の全てをフォローし、各委員会活動のバックアップや資料の整理、会員相互の親睦会の開催、校内文化祭への参加協力(模擬店・バザー等)、スキー教室の講師

・補助の依頼等を行い学校・家庭・地域が一体となり活動を進めている。

・郡連P球技大会の原案作成から進行の全てを行うと共に就職生徒の激励会を行う。

▼広報委員会 年三回の「猪中PTA会報」の発行を担当しており、PTA活動や、学校行事等を家庭にわかりやすく掲載し好評を得ている。

▼学年委員会 学年毎に子供達とふれあう行事を実施している。なかでも二年生の対外交流は昨

年がアメリカンスクールとの雪上交歓会、今年度は沖繩の中学生とのサマーキャンプと父兄も多数参加して行われました。

▼地区委員会 長期休業中の生徒指導及び地区懇談会の運営にあたり地区の指導的役割を果している。

▼総務委員会 各専門委員長・本部役員で構成しPTA活動の全てをフォローし、各委員会活動のバックアップや資料の整理、会員相互の親睦会の開催、校内文化祭への参加協力(模擬店・バザー等)、スキー教室の講師

・補助の依頼等を行い学校・家庭・地域が一体となり活動を進めている。

《いわき》

児童の幸福を願う諸活動

児童とのふれ合いを大切にしながら

いわき市立錦東小学校PTA

本校は、いわき市の南端にあり、鮫川の下流に位置します。校舎からは太平洋を一望に眺め、町の中心である大手化学工場や火力発電所をとらえる事ができます。

さて、本校は二年前に創立十周年を迎えたばかりの若い学校であり、校舎全体は非常に明るく、清楚な印象を与えます。広々とした校庭・田畑に囲まれた自然のうるおい、ゆったりとした通学路な



(PTAバザー)

ど、児童数三七九名、会員数三〇名にとっては、恵まれた教育の場といえそうです。この恵まれた環境のもとで、今日までの歴史と伝統を守り、未来に向けてより素晴らしい伝統を築いていこうとする活気ある活動を本PTAは地域ぐるみで育てあげていければと願っています。本PTAの信条は、家庭と学校と社会における児童・青少年の幸福な成長を図る事ですので、児童達とのふれ合いを大切にしながらかつて諸活動を精力的におし進めていきたいと思っております。ここに、諸活動の一端を御紹介申し上げます。

▼広報活動として、年三回発行の「しおさい」がある。各部活動計画、学校行事そして児童や父兄の作品で構成され、内容豊かな新聞である。

▼厚生部活動として、奉仕作業とベルマーク整理作業がある。昨年度は、

ベルマークによって電動ミシンを購入するなど、環境美化・教育機器の充実化に努めている。

▼教養部活動として、教養講座やスポーツを通し体力向上を図るべき実践活動を行っている。

▼校外補導部活動として、休み中の事故防止活動を行っている。平日による巡回補導もあり、地域ごとの連絡が密である。又、育成会による球技大会への参加も盛んである。

▼学年活動として、親子レクリエーションの充実に努めている。特に父親への参加を呼びかけ、いも煮会や小運動会などで心地よい汗を流している。

▼交通安全母の会活動として、朝の立活動・手作りマスコットを通しての事故防止運動の実践、その他各種大会への参加など活発に活動している。

特色あるPTA活動

昭和五十一年の学校火災以降、学校は会員全員で守り育てようという強い意志のもとに活動を進め、児童は学習しやすく、教師は指導しやすい教育環境作りを

《相馬》

より良い教育環境作りを

目指した活動の推進

原町市立石神第二小学校PTA

本校は原町市の西方にある山沿いに位置し、周囲には野馬追いで賑わう雲雀ヶ原、四季折々の変化が楽しめる横川ダム・国見山・高の倉ダム等自然環境に恵まれた学校です。十数年前から宅地造成が急速に進み、純農村地域から住宅団地に大きく様変わりをしている地域でもあります。児童数は七四二名、会員数は五三一名で、年々増加の傾向にあり、市内でも大規模校の一つに数えられています。

重点目標として絶大な協力態勢を得ながら、着実に成果を挙げてきました。それでは特色のある活動の様子をいくつか紹介します。

▼児童が増加し校庭が狭くなったため、私有地を借用しての第二グラウンド造成の際は、環境委員会が中心となり、全員の奉仕作業で整地からフェ



(早朝の奉仕作業・除草)

ス、防球ネット、タイヤの設置等を五年計画で立派に完成する事が出来ました。夏の除草は早朝の奉仕作業によりいつも使用できるようにしています。また、地域の老人会にも開放しゲートボールや、グランドゴルフで楽しんで貰っています。

▼校外生活指導活動では、児童を交通事故から守り毎日安全に登校すること願って、祝日・休日以外の登校日には会員が交代制で一日も休むことなく、学校近くの交差点での交通指導を十年近くも続けています。

今年度はPTA優良団体として地方P・県Pの表彰を受けて喜んでる矢先に、日P表彰の内示を頂き驚きとともに身に余る光栄と会員一同心より感謝と御礼を申し上げます。今後も初心を忘れることなく、表彰に恥じない活動を推進し、地域社会に貢献できるPTAとして前進したいと考えています。



平成3年度福島県PTA安全互助会加入状況 (H.3.10.15現在)

区分 地区	小 中 学 校 別					
	小 学 校		中 学 校		合 計	
	加入P数	加入率	加入P数	加入率	加入P数	加入率
福島	48 (26)	100.0	20 ㊷	95.2	68	98.6
達南	12 (5)	100.0	3	100.0	15	100.0
伊達	30 (14)	100.0	8	100.0	38	100.0
安達	33 (14)	100.0	10	83.3	43	95.6
郡山	57 (5)	93.4	13	46.2	70	80.5
岩瀬	23 (5)	95.8	7	53.8	30	81.1
石川	26 (7)	100.0	7 ㊸	87.5	33	97.1
田村	37 (13)	97.4	14	93.3	51	96.2
西白河	27 (12)	100.0	14	100.0	41	100.0
東白川	22 (7)	100.0	4	100.0	26	100.0
若松	18	100.0	8	88.9	26	96.3
北会津	16 (10)	100.0	6	100.0	22	100.0
両沼	18 (9)	100.0	4	40.0	22	87.0
大沼	10 (2)	100.0	4	100.0	14	100.0
耶麻	30 (6)	93.8	10	71.4	40	87.0
南会津	19 (1)	100.0	11	100.0	30	100.0
いわき	41 (8)	57.7	14 ㊹	33.3	55	48.7
双葉	19 (7)	100.0	10	90.9	29	96.7
相馬	32 (21)	100.0	12 ㊺	92.3	44	97.8
合計	518(172)	93.3	179 ㊻	73.1	697	87.1

(㊷は幼稚園数、㊸は養護学校・分校)

今年も災害事故防止ポスターと習字を募集します。多数の応募を期待しております。

対象
福島県内小中学校

応募規定
募集要項参照
(十一月配布)

応募締切
平成四年一月三十一日
提出先
福島県PTA連合会

「忘れていませんか子育てで大切なことを」
一、〇〇〇円
品川者子 著

「ぼくもパパみたいになるのかな」 九〇〇円
「ママだけのティッシュってなあに」
八〇〇円
入江幸子 著

▼第四十回大会として多大な成果を上げた大会運営に敬意を表します。
▼本会報のため多くの原稿・写真を届けて下さった大会事務局、そして、多忙な皆様方からの原稿送付に深く感謝します。
▼各単Pのいっそうの活動を期待します。

第15回子どもの災害事故防止ホスター・習字募集

今年も災害事故防止ポスターと習字を募集します。多数の応募を期待しております。

対象
福島県内小中学校

応募規定
募集要項参照
(十一月配布)

応募締切
平成四年一月三十一日
提出先
福島県PTA連合会

※PTA新聞の優秀作品は「全国小中学校PTA広報紙コンクール」に出品します。

平成三年度福島県PTA連合会推薦図書紹介



県PTA安全互助会だより

新しく改訂されました福島県PTA安全互助会(A1・2・B1・2コースに摘要)制度も、皆様のご理解とご協力を得まして、県内全校の八十七%の加入率となりました。

十月十五日現在での給付件数は一、四五〇件でその内八名もの学童が死亡しております。新しい制度の学童賠償責任保険の事故件数は五件ありましたので、その事例をあげてみましょう。

例1 園児の投げた小石が駐車中の自動車にあたり、リアガラスを破損。
給付額 七九、九〇六円

例2 小学生二人が幼稚園でキャッチボール中、窓ガラスを破損。
給付額 五、五〇〇円

例3 小学生三人が道路の近くで石投げ遊びをしていて通りかかった自動車に石があたる。
給付額 二三八、〇五〇円

例4 集団登校場所を遊んでいてつまずき、美容院の窓ガラスを破損。
給付金 五、〇〇〇円

例5 地区予選会の試合待ち中、友と遊んでいてバックを振りどばし、体育館の窓ガラス二枚破損。
給付額 一九、九四四円

例6 PTA賠償給付例(全コースに摘要)
例1 PTA奉仕作業中五tクレーン車を借用し操作を誤りワイヤーを破損。
給付額 一〇五、六〇五円

例2 PTA奉仕作業中借上げた農耕用トラクタの運転操作を誤りシャフトを破損。
給付額 一四、七〇八円

例3 PTA奉仕作業中電動草刈り鎌で小石をはね飛ばし、駐車中のワゴン車のリアガラスを破損。
給付額 四八、三三〇円

例4 PTA球技大会ソフボール中、打球のボールが教室の窓ガラスを破損。
給付額 八、〇〇〇円

※賠償責任保険については事故が発生したら、直ちに電話にて事故状況を本会事務局にご連絡ください。

例1 PTA奉仕作業中五tクレーン車を借用し操作を誤りワイヤーを破損。
給付額 一〇五、六〇五円

例2 PTA奉仕作業中借上げた農耕用トラクタの運転操作を誤りシャフトを破損。
給付額 一四、七〇八円

例3 PTA奉仕作業中電動草刈り鎌で小石をはね飛ばし、駐車中のワゴン車のリアガラスを破損。
給付額 四八、三三〇円

例4 PTA球技大会ソフボール中、打球のボールが教室の窓ガラスを破損。
給付額 八、〇〇〇円

▼対象
県下小学校・中学校の新聞、またはPTAで発行する新聞で本年一月以降発行したもの。

▼応募方法
発行回数ごとに各一部を十二月二十日(金)まで、〒960 福島市柳町四一・二九 福島民友新聞社会事業部「新聞コンクール係」へ送ってください。

※PTA新聞の優秀作品は「全国小中学校PTA広報紙コンクール」に出品します。

平成三年度福島県PTA連合会推薦図書紹介

▼会津若松大会は、時々雨に見まわれましたが、大会事務局の綿密な計画と準備、そして、実行委員各位の献身的な働き、会員の積極的な参加によりとどこおりなく進められました。次期会催地区の「よらんしこらんしよ福島へ」の呼びかけにより二日間の幕を閉じました。

編集後記

▼会報第32号をお届けします。

▼会津若松大会は、時々雨に見まわれましたが、大会事務局の綿密な計画と準備、そして、実行委員各位の献身的な働き、会員の積極的な参加によりとどこおりなく進められました。次期会催地区の「よらんしこらんしよ福島へ」の呼びかけにより二日間の幕を閉じました。